

NUAL (ニューアル) は Nagoya University Alumni Association の略称です。



名古屋大学男声合唱団創立60周年記念演奏会での全員合唱
Nagoya University men's chorus group sang at its 60 years anniversary

撮影：中川幸作

ネパール人学校の子どもたちと
With children in the Nepalese school

Contents

特集1 名古屋大学男声合唱団 創立60周年のあゆみ	2
60 Years Anniversary of Nagoya University Men's Chorus Group	
特集2 同窓生による日本初の ネパール人学校の設立	4
An Alumnus Established the Very First Nepalese School in Japan	

活躍する会員たち	6
NUAL People in Action	
同窓会ニュース	10
NUAL News	
事務局からのお知らせ	16
From the NUAL Office	

今号では、創立60周年を迎えた名古屋大学男声合唱団のあゆみと記念行事の様子をご紹介します。また、大学院国際開発研究科修士による日本初のネパール人学校の設立にいたる経緯をお話頂きます。

In this volume, we first introduce the course of history of and the memorial event of Nagoya University men's chorus group which attained its 60 years anniversary. Next, we interview the alumnus (graduate school of international development) about his brand new business: the very first Nepalese school in Japan.

名古屋大学男声合唱団創立60周年のあゆみ

60 Years Anniversary of Nagoya University Men's Chorus Group

名古屋大学男声合唱団が創立60周年を迎えました。今回は、そのあゆみと記念行事の様様を、古田敬二さん（経済卒）にご紹介頂きました。

Nagoya University men's chorus group attained its 60 years anniversary. In this volume, Mr. Keiji Furuta, the alumnus (department of economics) introduces us the course of history and the memorial event of the group.

1963年 経済学部卒
古田 敬二



の中核としても活動しました。団内創作により新しい合唱曲の創造にも取り組みました。1965年前後は団員数200名を擁し、10年間続けて2日間2回公演を成功させる勢いでしたが、1980年代以降は団員数減少との闘いとなりました。女子学生が増えて混声合唱団への入団者数が増え、「がつれん」も組織力を失って1990年代後半には自然消滅、名大男声はその活動を定期演奏会に絞り継続していましたが、2003年の第49回演奏会を最後に現役の活動は途絶えました。

～時をかさねて～

名古屋大学男声合唱団の60年を振り返る

名古屋大学男声合唱団（名大男声）は1952年、工学部の男声と教養部混声の男声陣が中心となり創立されました。

1953年には大学合唱協会（名大・横浜国大・東大・京大の合唱団が参加）を設立、1956年には名古屋地区12大学の合唱団で名古屋地区大学合唱連盟（がつれん）を結成し、大学での合唱活動の牽引車として活動、1959年9月の伊勢湾台風の際は、被災地救援活動を呼びかけ、学校音楽施設復興資金募集演奏会にも参加しました。

翌1960年は安保闘争の年となり、デモに参加し、激励の歌を歌ったりしました。うたごえ運動が盛りあがった時期でもありました。それまでコンクールという形で参加していた全日本合唱連盟の「技術偏重」路線に決別し、「私たちの音楽を求めて」のスローガンのもと、中部地方の学生のうたごえ運動

当時、限られたOBの親睦会の他には、名大男声の同窓会組織はありませんでした。1980年代後半に若手OB数名でOB名簿作成に取り組み、その完成を機に同窓会の組織化を進め、1991年1月に総会を開きました。

2002年のOB会総会で一堂に会しての演奏会開催が提案され、2003年3月、名古屋市民会館大ホールで創立50周年記念演奏会を開催しました。

演奏会では、関東地区在住のOB、現役名大男声（10名）、名古屋地区以西在住OBが1ステージずつを担当し、最終ステージはこれら170名のメンバーによる合同演奏となりました。



Autumn Concert（於 豊田講堂）

た。アンコール曲には、会場からOBの飛び入り参加もあり、200名を越す大合唱となりました。演奏会前に地元新聞からの取材があり、大々的に記事が掲載された効果もあり、定員2300席を大幅にオーバーする盛況となりました。

この演奏会を機に、定常的に活動をする合唱団結成の機運が高まり、「名古屋男声合唱団」、「名古屋大学男声東京OB合唱団」を結成しました。

名古屋男声合唱団は、全学同窓会総会での招待演奏に出演する一方、2010年のAutumn Concert 2010では現役の名古屋大学混声合唱団の賛助出演を、2011年のAutumn Concert 2011では名古屋大学ギターマンドリンクラブのOBを含む名古屋マンドリン合奏団の賛助出演を得て、いずれも豊田講堂を満席にしての演奏会を成功させました。

名大男声東京OB合唱団は、2009年6月、東北大学男声OB合唱団、横浜国大グリークラブOB合唱団と合同演奏会を、また2012年1月には単独での演奏会をトッパンホールを満席にして成功させました。

そして今年4月、創立60周年の記念演奏会を愛知県芸術劇場コンサートホールで開催しました。出演者の平均年齢は70歳前後と高齢化は免れませんが、学生時代を彷彿とさせる盛りあがった演奏会となりました。

名大男声には昔からのファンも多く、演奏会当日は開場時刻前から長蛇の列がホールにむけてつながるという盛況の中の演奏会となりました。

構成は、東京OB合唱団、名古屋男声合唱団が各2ステ

ジ、最終の第5ステージは団に所属しないOBを加えてのステージとなりました。

2011年の東日本大震災からの復興が遅れ、苦しむ人が多い中、レパートリーの選択にも時間をかけました。東京は「水のいのち」とロシア民謡、名古屋男声は「枯れ木と太陽の歌」に加え創立の時期から追い求めてきた「民族音楽」をテーマにしました。

最終ステージは、地元、関東、関西地区から参加したOBも合わせて130人という大合唱となりました。プログラムの締めくくりは定番「パリの若者の歌」です。同窓会員諸兄の中にはご記憶の方も多いでしょうが、1953年以来、長年にわたり入学式や卒業式で歓迎と激励の意味を込めて歌ってきた歌です。プログラムが終わっても会場から熱烈な拍手と歓声上がり、高揚感はさめやらず、舞台上の合唱団と聴衆が一体になって全員合唱となりました。歌は東日本大震災支援ソング「花は咲く」。会場いっぱい歌声が響き渡りました。歌う前に演奏会の収益から、被災地へ義捐金を送ることをアナウンスし、後日、中日新聞、NHK、全日本合唱連盟を通じ被災地へ寄贈しました。

創立以来の卒団生は800名を超え、同窓会として把握されているだけでも700名近くになっています。今回の演奏会を機に両合唱団とも新しいメンバーを迎え、次の演奏会に向け新しいスタートを切りました。創成期の合唱への熱い思いと、半世紀続いた名大男声の根幹は今なお私たちOBの歌心の中に生き続けています。



創立60周年記念演奏会 第5ステージ

撮影：中川幸作



同窓生による日本初のネパール人学校の設立

An Alumnus Established the Very First Nepalese School in Japan

大学院国際開発研究科修了生の河辺亮輔さんは、最近日本初のネパール人学校の設立に協力されました。ご自身に学校を立ち上げるに至る経緯をご紹介頂きました。

Mr. Ryosuke Kawabe, the alumnus (graduate school of international development) recently launched himself on the very first Nepalese school in Japan. He gave us a story: his new business and the motivation for his enterprise.

(特活) ジーエルエム・インスティテュート
(特活) ネパール教育支援センター

河辺 亮輔



私は現在4つのNPO…①日本・フィリピン・ネパールで活動する国際協力NPO、②日本に居住するネパール人の子どものための学校運営、③アフリカを支援するNPO、④フィリピンの社会企業レストランに係るNPOに所属し、日々活動を行っております。まだまだ若輩者ではありますが、もともと音楽を専攻していた私が、なぜ名古屋大学を経て現在の活動を行うようになっていったのか、自分でも不思議に思いますので、振り返りながら今回記事を執筆させて頂きました。

【名古屋大学大学院入学に至るまで】

大学時代音楽を勉強していた私は、児童養護施設に音楽を教えるボランティアに赴く機会がありました。そこで活動することで、初めて「人の役に立つこと」を実感し、音楽でもっと人の役に立ちたい、と思い大学卒業後は青年海外協力隊員

としてアフリカのジンバブエに音楽教員として赴きました。海外に長期滞在したこともなく、アフリカに興味を持っていたわけではなかったのですが、非常に暖かく現地の人々に受け入れてもらい、充実した2年間を過ごすことができました。当時最大限自身に出来ることは全うできたと思うものの、現地に存在する課題解決に対し、当時自身が有していた音楽の技術・知識だけでは限界があり、どうしたら現地により貢献することが出来るのだろう、と考え帰国後名古屋大学大学院国際開発研究科(GSID)に入学することを決意しました。

【大学院で行った研究と外国人支援活動】

GSIDでは途上国の教育開発を専攻し、同時に多くの課外活動も行いました。ウガンダにおける紛争後の音楽教育を修士論文のテーマとしましたが、同時に科研費研究に参加する機会を頂き、出身地である静岡県のブラジル人学校についての調査も行いました。ブラジル人学校を調査したことで益々在日外国人支援にも興味を持ち、大学院時代には名古屋大学の留学生を出前授業に派遣したり、生活に問題を抱える外国人の通訳として派遣する活動にも携わりました。自らがジンバブエで暖かく受け入れてもらったように、日本に住む外国人にも日本に来て良かったと思って欲しいと帰国後強く思い、こうした活動を行うようになったのですが、大学から大学院修了ま



ジンバブエにおける青年海外協力隊時代



ネパール人学校設立時にネパールの話をしている様子

で、子ども、アフリカ、在日外国人と形は変えつつも、一貫して「世の中で十分な環境に恵まれていない」状況にある、「自分が出会った目の前の人」に貢献できるような活動を行うようになりました。

【現在の仕事とネパールとの出会い】

2009年にGSIDを修了した後は、上京しGLMインスティテュート(GLMi)という小さなNPOに就職しました。GLMiはフィリピンとネパールで農村開発プロジェクトを実施すると共に、日本でもグローバルリーダー育成を行うべくセミナーや研修を実施しています。セミナーを開催した際に、日本に住むネパール人留学生にスピーカーを依頼したことがあり、東京に住むネパールの方と知り合いました。そんな中で、2012年6月に、彼らから「日本にネパール人の子供達のための学校を作りたいんだ」という相談を受けました。私もその時点まで全く知りませんでしたが、日本ではネパール人人口が2012年末の時点で2万人を突破、10年で10倍に増加しています。彼らの多くはインド料理店を経営したり、コックとして働いているようですが、多くの親は子どもをネパールに残し、離れ離れで暮らしているとのことで、「ネパール人学校を設立するのが日本に住むネパール人の夢なんだ」という話をされました。

GSID時代、ブラジル人学校を研究したことで、日本の外国人学校についてはある程度の知識がありました。修了後NPOに就職したことで、NPOについての知識や実務能力もある程度身につけていました。そこで、「NPOを運営母体として設立し、ネパール人学校を開設できるんじゃないか」と考えました。そして、そんな夢の実現に協力することができたら、と思い設立に協力することにしました。



ネパール人学校の子どもたちと

【エベレスト・インターナショナル・スクール・ジャパンの立ち上げ】

設立に協力することを決めてからは、勤務時間終了後や有給休暇を取得し、NPO設立や物件探しのために走り回る日々が始まりました。2013年4月から開校したい、という希望を受け、2012年8月にNPO設立の書類を提出、その後海外出張を挟みながら物件の交渉を続け、2013年1月に物件を契約、同時にネパール人コミュニティから資金調達を行い、2月に内装工事を始め、急ピッチで準備を進めて行きました。工事が終了したのは3月20日、全てがギリギリのスケジュールでしたが、エベレスト・インターナショナル・スクール・ジャパンという名称でどうにか4月の開校にこぎつけることが出来ました。「世界で初めてのネパール人学校」ということで、たくさんのメディアにも取り上げてもらうことも出来、開校してまもないことから日々トラブルの連続ながらも、どうにか学校運営に協力しています。

【これから】

エベレスト・インターナショナル・スクール・ジャパンでは、私は「日本とネパールを繋ぐ存在」として、日本人とネパール人が共に支えあい楽しく暮らせる社会を作っていくことに貢献できたらと考えています。しかし、私がこれまで出会って来たのはネパール人だけではありません。日本とネパールのみならず、世界中の人々が繋がり、誰もが幸せに暮らしていけるような社会づくりにこれからも貢献していけたらと考えています。



エベレスト・インターナショナル・スクール・ジャパン

■略歴

- 1980年 静岡県生まれ
- 2003年 3月 神戸大学発達科学部卒業
- 2003年12月 青年海外協力隊ジンバブエ派遣
- 2009年 3月 名古屋大学大学院国際開発研究科修了
- 2009年 4月 (特活) ジェールエム・インスティテュート入局
- 2011年以降 (特活) シンバ、(特活) ネパール教育支援センター、(特活) ユニカセ・ジャパンの設立に参画

活躍する会員たち NUAL People in Action

「活躍する会員たち」では、同窓会会員の各界におけるご活躍ぶりを紹介しています。第20回は、文学部国史学科を卒業され、地元企業のグローバル化に取り組まれている西村今日子さん、工学部航空学科を卒業され、現在宇宙航空研究開発機構（JAXA）理事としてご活躍の山本静夫さんにご登場頂きます。

The “NUAL People in Action” column features our alumni/ae playing active roles in various fields. In 20th installment, we are going to interview Ms. Kyoko Nishimura, the alumna (department of letters, Japanese history major) who is now grappling with local companies globalization and Mr. Shizuo Yamamoto, the alumnus (department of engineering, aerospace engineering major) who serves as the executive director of JAXA.

西村 今日子さん



毎日新聞提供

■略歴

- 1986年 3月 名古屋大学文学部国史学科卒
- 1986年 9月 中国中山大学中文学科留学
- 1987年 8月 森松工業子会社、アムト株式会社入社
同グループの中国ビジネスの責任者として日中貿易に関わる。
- 1989年 4月 香港現地法人一タツメイト設立、董事（取締役）営業部長に就任
- 1990年10月 上海森松圧力容器有限公司設立。董事（取締役）営業部長に就任
上海森松の欧米市場の開拓、国際調達（チタン等）なども務め森松工業グループのグローバル化推進
- 2005年11月 森松工業株式会社 取締役 海外事業部長に就任
現在、子会社14社の取締役兼任
- 2010年10月 APEC「女性企業家サミット」に登壇

女性の活用を中国、スウェーデンから学ぶ

1. 中国留学から思わぬ展開へ

私は1986年に名古屋大学の国史学科を卒業し、すぐに中国の広東省広州市にある中山大学に1年留学し、中国語を学びました。当時としてはまだ中国に留学に行くのは珍しい頃だったと思います。

帰国後、地元の中小企業——森松工業株式会社が子会社で商社部門を立ち上げるということで、その一号社員として入社しました。森松工業はステンレスの水やお湯を貯めるタンクを製造しているメーカーです。当時、日本のメーカーは輸出入をだいたい商社経由で行っていましたが、そのメリットも多いですが、デメリットとして自社で国際経験をつめる機会を喪失しているということがあり、私のミッションはとにかく自力で海外から資材を調達したり、直接自社製品を海外に売るということでした。しかも、その相手国はこれまた当時としてはまだ国際ビジネスの経験が少ない中国でした。確かに中国語は1年留学しましたので、少しは話せる程度でしたが、もちろんビジネスの実務レベルにはほど遠く、また貿易知識も全くないわけで、先輩もいないし、本当に毎日が手探り状態でした。また、当時の中国製品は、品質や納期という点で問題だ

らけでした。

そのような問題を解決するには、やはり中国で製造しなければならぬということになり、1990年に初めて中国上海の浦東開発区に合弁企業を設立しました。当時は中国国内販売するには、独資ではなく、合弁会社にしなければならなかったのです。

試行錯誤しながら、やっと設立した合弁会社も、運営を始めると、他の企業が経験したのとはほぼ同じような辛酸をなめることになりました。ここではその苦労は省くこととして、「当時は中国に留学したことをずいぶん後悔した」程度にとどめておきましょう。

2. 難産で生まれた会社が予想以上に発展

4年後の1994年に合弁会社を解消して、その間に法制度も変化したこともあり、独資企業に変更し、マイナスからの再出発となりました。その後も、コピー商品が出て一時は撤退も余儀なしかというところまで追い込まれましたが、ちょうど外資系企業の中国進出ラッシュが始まり、ステンレスタンクの技術を工場のプロセスタンクに転用したところ、これが非常に好評で、特に欧米系の会社に「これならうちの他の国の工場にも使える」とさらなる国際展開の機会を得ることになりました。そこから、中国人の社員



中国人の社員と国際市場開拓へ



2005年2月ウクライナヘチタンの調達に

と共に国際市場の開拓を始め、2006年には売上規模で本社を抜き、現在は中国単体で売上が約400億円、社員3700人になりました。そのような中、ふと気がつくとう女性社員が重要な場所で活躍していました。営業、設計、プロジェクトマネージャー、経理部門など。しかも、業種は重厚長大産業です。

3. 中国における女性の活躍

中国ではもちろん男女平等ですが、結婚、出産が女性の社会進出に全く妨げとなっておりません。女性社員も出産後、平均40日程度で全員戻ってきます。これを可能するには、圧倒的なサポートがあります。例えば、子育てはおじいさん、おばあさんが担当、家事はもちろん旦那さんが積極的に参加、会社では出産後も復帰が

当然という前提で人事もローテーション及び補助体制を組む。そして何よりも、女性に対して全く偏見がない。この点は本当に学ぶべきであると思います。

2010年に日本で APEC が開催された時、「女性企業家サミット」が中小企業大臣会合と併設して開催され、なぜか私が「能力向上と事業拡大に向けた方策」というセッションに登壇することになりました。ここで私はこの中国の事例と日本の課題について話をさせていただきました。また、その時、日本がこの女性活用において世界の中で最低レベルであるという実態に愕然としました。

4. 子会社から学ぶ女性活用と男女共生

先程、中国における女性へのサポート、女性の活用を紹介しましたが、2011年にスウェーデンの会社を傘下に入れることにより、スウェーデンからも大変多くのことを学びました。スウェーデンは高福祉国家であり、女性の支援は法制化しています。例えば、男性社員も育休半年は義務化されています。このように、偶然女性活用の進んでいる中国とスウェーデンに子会社を設立し、現在、この子会社から女性活用の事例を仕事を通して学んでいます。

今期下半期には、母校の工学部大学院で2回ほど講義をさせていただく機会をいただきました。こうした経験を後輩にご紹介し、今後の生き方の参考にしていただけたらこれほど嬉しいことはありません。



2010年10月1日 APEC 「女性企業家サミット」登壇

山本 静夫さん



■略歴

昭和52年 3月 名古屋大学工学部航空学科卒業
昭和52年 4月 宇宙開発事業団入社
平成 4年 5月 海洋科学技術センターに出向（～平成6年3月）
平成 7年10月 地球観測システム本部地球観測推進部主任開発部員
平成17年 1月 総合技術研究本部事業推進部参事
平成19年 4月 システムエンジニアリング推進室長
平成21年 4月 人事部長
平成24年 7月 宇宙利用ミッション本部宇宙利用統括
平成25年 4月 理事



H-IIIB ロケットの打上げ 2013年8月4日 種子島宇宙センター

本年8月4日早朝4時48分、宇宙航空研究開発機構（JAXA）は、種子島宇宙センターから、国際宇宙ステーション（ISS）への物資補給を行う宇宙機「こうのとり4号」を搭載したH-IIIB ロケット4号機を打ち上げました。

私は、1977年3月に名古屋大学工学部航空学科を卒業後、同年4月に当時の宇宙開発事業団（NASDA）に入社し、およそ30数年間にわたって宇宙に関連した仕事に携わってきました。思い返すと、大学卒業直前のころ、我が国で初めて静止衛星となった技術試験衛星II型（ETS-II）の打上げ成功（1977年2月）のニュースが、新聞に大きく報じられていました。当時航空学科の必修科目で最難関?と言われていた「構造力学」の試験勉強に頭を悩ませていた時のニュースでした。

今では、直径20mもあるアンテナを軌道上で展開する大型静止衛星を打ち上げられる時代となっております。また、探査のミッションでは、だれもが驚き、感動を呼んだ「はやぶさ」の快挙が記憶に新しいと思いますが、我が

国の宇宙開発への取り組みも着実に前進しています。

私自身は、宇宙開発事業団（NASDA）に入社後、主に「人工衛星による地球観測分野」の業務にあたってきました。1970年代後半から80年代にかけて、世界、特に米国 NASA ではロシアの穀物収穫量を予測することも視野に入れた「ランドサット（LANDSAT）」シリーズによる地球観測が最盛期を迎えていました。また、陸域のみならず、海上風（風向風速）、海面水温、海面高度などを観測するために、新たな電波センサを複数搭載した「シーサット（SeaSat）」衛星を打ち上げて、地球規模での観測に乗り出していました。



朝日新聞 1977年2月24日

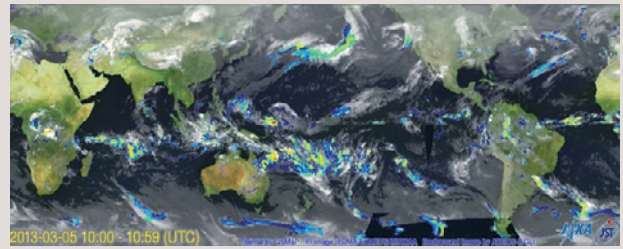
我が国でも、衛星による地球観測の推進方策が議論され、NASDA は、1978年に埼玉県の高山町に「地球観測センター（EOC）」を開設しました。地球観測センター開設の準備や、「ランドサット」衛星のデータ受信・処理、解析等運用業務が初仕事として、思い出されます。

宇宙機関として、次なる目標は、日本独自の地球観測衛星を打ち上げる事でした。幅広い利用者からの意見要望を聞きつつ、概念検討が開始され、我が国最初の地球観測衛星として、「海洋観測衛星1号（MOS-1）」が1987年2月に打ち上げられました。当時、私も地球観測センターにおいてデータ処理を担当しており、初画像にむけて悪戦苦闘していました。

1988年から1989年にかけて、NASDA の海外研修制度によって、ワシントン郊外に位置するNASA のゴダード宇宙飛行センター（GSFC）に1年間滞在する機会を得ました。NASA では、西のジェット推進研究所（JPL）、東のGSFC が地球観測のメッカとして、その巨大なフィールドセンターの機能を発揮し、全米、いや世界からの研究者・技術者が集まっていました。

衛星による地球観測は、世界各国の宇宙機関でも注目されるようになり、特に、気候変動に代表される地球規模の環境問題の解決の一助として、人工衛星による観測データを有効活用できないかという視点が、関係機関で大きな流れとなりました。

1997年11月に打ち上げられた熱帯降雨観測衛星（TRMM）も、気候変動の解明を目指した代表的な日米共同プロジェクトでした。日本側はNASDAと通信総合研究所（当時）、米国側はNASAが参画し、主ミッション機器として降雨レーダを日本側が開発し、NASAの衛星に搭載、さらに、その衛星を日本のロケットで打ち上げるというものでした。観測されたデータは、世界中の気象機関やサイエンティストによって、それぞれの業務や研究に応用・利用されています。日本側のプログラムマネージャとして、計画の立ち上げ段階



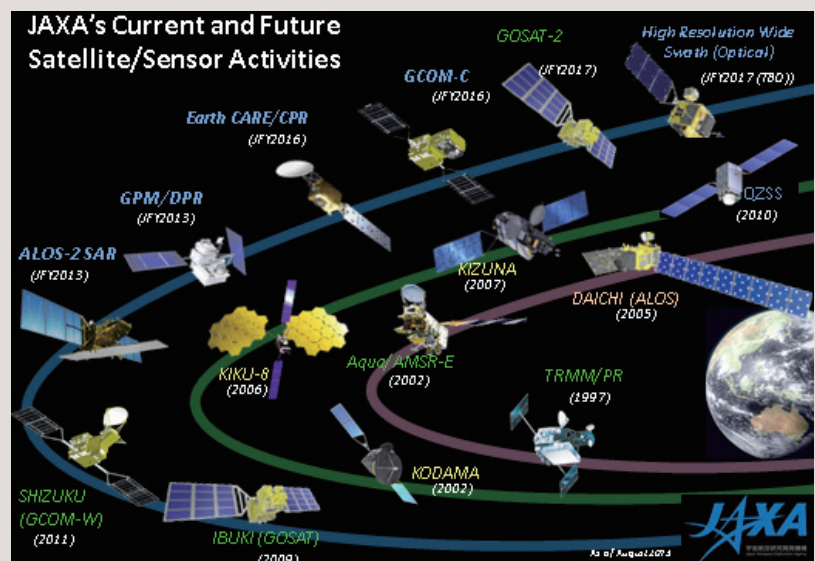
熱帯降雨観測衛星（TRMM）等を用いた全地球降雨マップ

から打ち上げ後のデータ利用にわたり、本計画に参加することができたのも、大変良い経験でした。

2003年、我が国の航空・宇宙に関する3機関（宇宙科学研究所（ISAS）、航空宇宙技術研究所（NAL）及び宇宙開発事業団（NASDA））が統合され、新たに「宇宙航空研究開発機構（JAXA）」として生まれ変わりました。

また、本年1月には、新たな宇宙基本計画が制定され、その中で、JAXA は政府全体の宇宙開発利用を技術で支える中核的な実施機関と位置づけられました。

今日、気象予報、カーナビゲーション、衛星通信・放送など日常生活に人工衛星はなくてはならないものとなっています。知の探究としての宇宙活動と、安全でより豊かな社会の構築にむけた宇宙利用を適切なバランスを持って進めることが、これまで以上に求められる時代となっています。



地球観測、通信・放送、測位等の利用を目指す衛星計画（JAXA）

全学同窓会ミャンマー支部が設立される

平成25年6月29日（土）首都ヤンゴンのセドナホテルで、名古屋大学全学同窓会の12番目の支部であるミャンマー支部の設立総会が行われました。

これは、名古屋大学ミャンマー・日本法律研究センターの開所式に合わせて行ったものです。

総会にはミャンマー人同窓生や名古屋大学関係者が参加しました。大学からは濱口道成総長、鮎京正訓副総長、市橋克哉副総長、定形衛法学研究科長はじめ本部、CALE（法政国際教育協力研究センター）の関係者に出席頂き、全学同窓会からは中野連携委員会委員長と総務部総務課（全学同窓会担当）の松原専門員が参加しました。

設立に向けて整備した名簿では、53名の同窓生がおられ、当日の同窓生参加者は16名でした。ミャンマー支部の支部長は、ヤンゴン第一医科大学の薬理学部長である Dr. Nang Hla Hla Win（女性）が就任されました。支部長は医学研究科の博士課程修了生（博士号取得）です。

ミャンマー支部は、前回のラオス支部と同様に制度上の理由で、日本への留学生の団体である「ミャンマー元日本留学生協会（MAJA）」の傘下で設立されました。

支部設立総会は、同じセドナホテルで行われたミャンマー・日本法律研究センターの開所記念パーティの終了後、14時からの予定を少し繰り上げて13時半から開始し、中野連携委員会委員長の司会で進行しました。（言語は英語で実施）

会の冒頭、ミャンマー元日本留学生協会（MAJA）の Myint wai 会長より祝辞および挨拶があり、その後に濱口総長が挨拶と支部設立のお祝いを述べられるとともに、名古屋大学の近況、留学生の状況を説明されました。そして全学同窓会のミャンマー支部が、大学と卒業生を結ぶ拠



支部旗の授与

点として活動し発展して欲しいと結ばれました。

続いて中野連携委員会委員長が豊田章一郎全学同窓会会長のメッセージを代読し、豊田会長からの支部設立のお祝いとともに、本年10月19日開催の第9回名古屋大学ホームカミングデイに、全学同窓会から、ミャンマー支部の支部長を招待する旨も伝えました。

その後濱口総長から支部長へ支部旗、認定証の授与、記念品の贈呈を行い、それを受けて Dr. Nang Hla Hla Win 支部長が挨拶され、今回同窓会の支部が設立されたことは大変うれしく、これから名古屋大学とミャンマー同窓生とを結ぶ拠点として活動して行きたいと述べられました。

そして最後に参加者全員で記念撮影を行い式典は終了しました。

今回は同窓生の希望もあり、ミャンマー支部のピンバッチ（支部旗のデザイン）を作成して同窓生に配布し好評でした。同窓生がバッチを胸に設立総会に出席されたことは大変うれしいことでした。

なお、ミャンマー支部設立に際しては、CALE の牧野絵美特任講師に、現地での設立手続きや同窓生への連絡等で大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。



集合写真

名古屋大学全学同窓会インドネシア支部が創設される

平成25年8月30日（金）にインドネシアの首都ジャカルタの中心街にある高層マンション Shahid Sudiman Residence 1階のイタリアンレストラン MISTICANZA（イタリア語で「混ぜる」の意）で、名古屋大学全学同窓会の13番目の海外支部となるインドネシア支部の設立総会が行われました。インドネシアには、200名を超える名古屋大学の留学経験者がいます。設立総会には、大学側からは濱口総長、平中元特任教授などにご出席いただき、全学同窓会からは、連携委員会委員長の中野先生と伊藤代表幹事が参加致しました。インドネシア側は、留学経験者だけでなく、夏休みで里帰りしていた Global30 の4名の学生も参加し、合計50名近くの方々が参加しました。飛

行機を使って駆けつけた人もいました。当初は、ハビビ元大統領（名古屋大学名誉博士）も参加予定でしたが、ハビビ邸での昼食会のときに、急遽別件が出来、不参加になったことを知りました。インドネシア駐在の日本人の卒業生・修了生も10名近く参加しました。伊藤代表幹事と同期の大石さん（オリエンタルコンサルタント）や、恩師の息子さんの西畑さん（大成建設）もこられました。なお、日本大使館から、進藤公使、南一等書記官、イルハム大使館員にも参加いただきました。

インドネシアのジャカルタは南緯6度という熱帯ですが、名古屋よりは多少気温は低く、風が吹くとすごくしやすい気候でした。雨が一時的によく降るそうですが、我々の滞在中は全く降りま

せんでした。種々の色のブーゲンビリアの花やプリメリアの白い花など大きな樹木に種々の花が咲いていました。

ジャカルタは、交通渋滞がひどく、定刻の19時に集まるのは難しいと思い、総会が始まる前から、歓談と飲食を開始していました。19:15には、リザル支部長（インドネシア経済担当調整大臣府次官、国際開発研究科博士課程平成12年修了、Dr. Risal Affandi Lukman）を始めとして60名程度が集まったので、設立総会を開始しました。設立総会では、インドネシア語と日本語を使って行われ、司会の中野連携委員会委員長の開会宣言で始まりました。通訳は Bella（三菱東京UFJ銀行）さんに行ってもらいました。まず、濱口総長から、挨拶があり、1) 支部設立を大変喜んでいること、2) 名古屋大学には、60名を越えるインドネシアの現役学生がいること、3) 今年、文部科学省によって上位4つの研究大学の1つに選ばれたこと、4) 支部には卒業生の精神的な支えとなるとともに、アジア諸国との交流に貢献するため、広い意味での支援を期待していることなどの話がありました。

その後、インドネシアの正装である Batik を着た伊藤代表幹事から、1) 豊田会長の祝辞を伝え、2) 支部設立のためお世話になった方々への感謝、3) 全学同窓会の設立の経緯や理念を説明し、4) 大学が管理することになった電子名簿が、大学管理となっていて、インターネットアクセスを開始するので住所変更をインターネット経由で行ってほしいこと、そして、5) 今後、名古屋大学の国際交流の拠点になることをお願いしました。最後に、リザル支部長を10月19日（土）に行われるホームカミングデイに招待することを述べました。

挨拶の後、濱口総長から、日本から持っていった支部認定書、支部旗および豊田講堂を内部にレーザー刻印したクリスタルを、インドネシア支部長のリザルさんに手渡していただきました。その後、リザル支部長から、今回のインドネシア支部設立を同窓生は大変喜んでおり、今後、名古屋大学及び名古屋大学全学同窓会に協力したいことなどについてかなり長い挨拶がありました。

設立総会終了後に、参加者の集合写真を、支部旗を入れて記念撮影しました。ただし、参加者が多かったため、分けて写真を撮りました。総会終了後も、歓談と食事を継続して参加者の皆さんに大変喜んでいただいた設立総会になりました。



支部認定証の授与

インドネシア支部の必要性は、かなり前から議論されていましたが、なかなか支部長などの中心となる卒業生・修了生が決まりませんでした。そこで、中野連携委員長から、インドネシア駐在の水野正幸さん（経済学部昭和49年卒、三菱商事株式会社）に依頼して、リザル支部長を見いだしていただきました。アグン幹事長（工学研究科修士課程平成17年修了、Agung Sri Hendarsa）も決まりました。その後、水野さんが帰国されたため、吉田哲士さん（法学部平成18年卒、MU Rserach and Consultanting Indonesia、三菱東京UFJ銀行から出向）に引き継がれ、アグン幹事長とともに会場の手配と準備などを手伝っていただきました。この場を借りて深く感謝申し上げます。



集合写真

大学支援事業目録贈呈

4月12日（金）、平成25年度第1回幹事会において、全学同窓会大学支援事業（平成24年度第2回）採択者に目録が贈呈されました。



採択事業代表者の方々

今回は、14件の応募総数から、表の3件が採択されました。事業の内容は、実施後に本誌で紹介され、全学同窓会HPでも公開されます。また、これまでに採択した事業を全学同窓会HPで公開しています。

平成24年度第2回 採択事業

申請者所属・氏名		事業名
国際交流協力推進本部 キャリア開発推進オフィス (CDO)・コーディネーター	今井 千晴	名大発国際人材輩出 へ向けたキャリア形成 支援強化
環境学研究科 都市環境学専攻・教授	勅使川原正臣	「まちづくりとひとづくり 一名大建築50年」
国際交流協力推進本部 アドバイジング・カウンセリング 部門 特任准教授	坂野 尚美	「障がい学生の自立 (自律)につながる支 援を」実現するために

同窓会支援事業 NUAL Support Project

全学同窓会の活動理念に沿った名古屋大学の活動（学生活動、就職支援事業、本部・部局による行事・寄付講義等）を支援するため、公募型の大学支援事業を実施しています。

NUAL has an open invitation type support project for Nagoya University's activities (including student activities, employment support service, events and lectures) in harmony with the activity principle of the association.

医学部保健学科における キャリア形成支援プログラムの構築と推進

申請代表者：河村守雄
(医学部保健学科)

本プログラムは医療系学生向けの独自のキャリア形成支援プログラムとして開始された。当初、理学療法学専攻学生を対象としたプログラムであったが、作業療法学専攻まで広がった。内容は、名古屋大学学生相談総合センターと同・人材育成センターの協力を得て、延べ6回のキャリア形成関連講義と、延べ12名の外来講師を招聘して計4回の講演を行った。就職活動支援として面接対策講座も2回行った。事後のアンケートでは、全員の参加者から有意義であったとの評価を得、結果として全員が順調に就職できた。さらに全専攻向けに、医療系女子大生向けのメイクアップセミナーを行った。これも好評を得た。

これまで保健学科図書室にはキャリア形成・就職活動関連の書籍は皆無であり、学生が自費でこれらを購入せざるを得なかったが、本事業支援費で保健学科図書室にキャリア形成支援図書コーナーが設置でき、学生は自由にこれらを利用できるようになった。



名古屋大学におけるグローバル人材育成の ためのキャリア教育支援

申請代表者：渡辺芳人
(国際交流協力推進本部長)

「グローバル人材育成プログラム」と銘打ち、8回シリーズでワークショップやゲストスピーカー講演、そして、現役の企業

人事担当者を大学に招いてのパネルディスカッションセッションを開催した。延べ120名の学生が参加し、その3分の1が日本人学生、3分の2は外国人留学生であった。8回のうち、6回は英語で開催した。参加した日本人学生も、英語でコミュニケーションを行おうとする意識が高く、留学生と活発に英語で意見を交わす場面が多々見られた。普段なかなか日本人学生、外国人留学生と率直に意見を交わす機会がない学生達にとって良い刺激となつたらしく、リピートして参加する学生も多く見られた。

キャリア形成や仕事、社会人として働くことについて、国や文化が違えば考え方、見方も違うことに新鮮味を感じ、これから留学を考えているため良い刺激となった、など、参加者からはポジティブなフィードバックが得られた。最終回では、大手企業5社から現役の若手人事担当者が本学を訪れ、学生と近い距離でストレートな質問に答え、意見を交わした。日本人学生から、「企業にとってのグローバル人材とは?」「即戦力とは?」など、鋭い質問を投げかける場面もあった。また、留学生からは、「自分はまだ就活生ではないが、このように直接人事担当者と近い距離で話せるとは思っても見なかった。」などの意見も出た。また参加企業との繋がりも強化でき、今後も継続してこのような機会を作り上げて行くことで同意を得た。

同窓会の支援を受け「グローバル人材育成プログラム」を実施したことで、多くの外国人留学生が日本人学生や社会人と触れ合い、日本でキャリアを積むことについて考える機会を提供することが出来たとともに、日本人学生も外国人留学生と意見を交わすことで、世界で活躍したいという意識をより刺激することができた。同窓会の皆様の支援に心より御礼申し上げます。これをきっかけに、名大生の更なるグローバル化に今後も尽力したい。



グローバルリーダー育成プログラムの実施

申請代表者：田所真生子

(留学生センター アドバイジング・カウンセリング部門 特任准教授 (現在、国際交流協力推進本部))

名古屋大学で学ぶ外国人留学生や一般/日本人学生が、国際社会において指導的な役割を果たす人材として活躍するために必要な総合能力を育成することを目的とし、通年の「名古屋大学グローバル・リーダー育成プログラム」を実施しました。

本プログラムは前期と後期の2部構成でした。前期には6回の体験型セミナーを行い、名古屋大学の国際交流や留学生について理解し、国際交流概論として多様性を知り多様な人々と一緒に活動することや異文化コミュニケーションを学び、自己理解と他者理解、問題解決やディスカッション方法、さらに議事録やアジェンダの作成方法といった実務についても学ぶ機会を持ちました。毎回7~14名の参加者がありました。また外部講師(阿部仁一橋大学国際教育センター准教授)を招聘した公開ワークショップには、学内外から計26名の参加がありました。本ワークショップは「パーソナルリーダーシップ」という手法を使って、異なる文化を理解し受け入れる態度を身につけるための心構えと自分のビジョンに向かうための習慣について体験的に学ぶものでした。これは大きなインパクトをもたらしたようで、このワークショップをきっかけに留学を決意し、その後交換留学を果たす学生もいました。

後期には、前期に培った知識とスキルの実践編と位置づけで、「第3回名古屋大学国際学生フォーラム(通称IF@N)」を企画・運営しました。国籍や学部・研究科、学年の垣根を

越えた10名の実行委員が多大な時間と労力をかけて準備したフォーラムは11月12日に開催され、39名の学生が熱いディスカッションや交流を通して有意義な時間を過ごしました。

フォーラム終了後も報告書の作成等、活動は続きましたが、3月には歴代のIF@Nの実行委員が集まり、IF@N-Reunion(同窓会)を開催しました。社会人となった卒業生も参加し、いかにこのような活動が彼らの人生に影響を与えているかということが話し合われました。参加学生たちにとっても、教員コーディネーターにとっても大きな学びと成長をもたらしており、今後さらに良いプログラムに発展させ、多文化共生に貢献し、グローバル・リーダーとなって活躍できる人材を育てていけるように努めていきたいと思えます。また、本事業につきましては、総合研究大学院大学にて講演発表する機会があり、また名古屋大学留学生センター紀要に実践報告が掲載されることになりました。

最後になりますが、名古屋大学全学同窓会支援事業から全面的にご支援をいただきましたことを、心より感謝申し上げます。



支部・部局便り News from the Alumni Associations of Different Schools and Regions

部局や地域ごとの同窓会から寄せていただいた便りを掲載します。それぞれが全学同窓会と連携しながら活動しています。

Here you can find announcements and news from alumni associations of schools and/or regions. These associations and NUAL are cooperating with each other to everyone's benefit.

関東支部 NUAL Kanto Branch

2月12日、丹羽宇一郎関東支部長(前中華人民共和国駐劬特命全権大使)による「関東支部設立10周年記念講演・交流会」を開催しました。費用は、会費等と幹事等の無償奉仕や寄付によって節約し、諸経費残金は、「名古屋大学基金」に「関東支部設立10周年記念」として寄付させていただきました。

名古屋大学は、学士会館の一室を東京連絡所としており、関東支部の拠点でもあります。3月14日の学士会の評議員会では、学士会の一般社団法人化への移行と、名古屋大学関係の理事を務めていただいた榊原定征東レ会長

が、ご多忙で退任され、関東支部長の丹羽宇一郎前大使の理事が決議されました。

4月21日に、名古屋大学男声合唱団創立60周年記念演奏会が愛知県芸術劇場コンサートホールで開催され、関東より東京OB合唱団が出席しました。毎週小学校の教室を借りて練習研鑽に励まれておられ、今回も、約40名の団員が東京より出席、「水のいのち」、「ロシアのひびき」等を演奏されました。東日本大震災による被災者の為の祈りを込めて名古屋の合唱団と共に「思い出のうた」を歌われ、最後に、会場の参加者と全員で「花は咲く」を合唱しました。全学同窓会と共に、今後も情熱を持って活躍されてゆくものと感銘しています。



関東支部は、インターネットの利用が重要であることを認識し、本部とも協議して、全学同窓会ホームページに、関東支部の欄を作って行く事を検討しています。

■連絡先 関東支部事務局長 片岡大造
E-mail kataoka@sol.dti.ne.jp

関西支部 NUAL Kansai Branch

関西支部では、平成25年5月18日(土)、大阪市内の中央電気倶楽部において、第8回総会を開催し、会員約120名が出席しました。

総会では、寛関西支部長の開会挨拶のあと、濱口総長から、新しい研究拠点の設置や大学が実施する若手育成プログラム(YLC)、若手研究者顕彰制度などについて報告がありました。また、元留学生が、母国で重要なポジションに就き活躍している様子などが紹介され、「名古屋大学濱口プラン2013」を運営指針として、今後も「名古屋大学から Nagoya University へ」を推進していくとの報告がありました。

次いで、伊藤全学同窓会代表幹事から、全学同窓会が昨年秋に設立10周年を迎え、これを記念して、全海外支部長をホームカミングデイに招待し感謝状を贈呈したこと、10周年記念誌を発行したこと、大学にアカデミックガウンを寄贈したこと、10周年記念懇親会を開催したことなどの報告がありました。

続いて、丹羽副会長・関東支部長から、「どうする日本、どうなる中国」と題した講演が行われました。高い見識と駐中国日本国大使時代の人脈から集めた最新情報をもとにした講演では、日中双方が話し合いを続け、お互いをよく知り理解を深めることが重要であると



総会の様子



懇親会の様子

繰り返し述べられました。講演後には、多くの質問が寄せられ時間を延長するほどでした。

総会終了後の懇親会は、部局支部同窓会の代表者や若手参加者が近況を報告するなど、和やかなうちに終了しました。

今年度の各学部、学科関西支部同窓会の行事予定で、これまでに決定している内容は以下の表の通りです。

関西地区在住の会員の皆さんには、夫々所属されている同窓会にぜひご参加いただくようお願い申し上げます。

(建制順)

関西名法会 (法学部)	恒例行事	年1回の総会・講演会・懇談会
	今年度の総会予定	
	開催日時	平成25年10月12日(土) 講演会 14:00~15:00 懇親会 15:00~16:30
	場所	大阪弥生会館
	講演	龍谷大学 政策学部 松浦 さと子教授(名大法 H5卒) 演題「小さな声をつたえるためにコミュニケーションメディアの諸相と課題」
責任者	会長 脇田 喜智夫(S50卒)	
問合せ先	事務局 和久利 俊次(S49卒) E-mail: wakuri@office.hannan.u.ac.jp 事務局 藤井 浩雅(S58卒) E-mail: h-fujii@sonata.plala.or.jp	
関西 キタン会 (経済学部)	恒例行事	年1回の総会・講演会・懇談会ならびにゴルフ会と新年懇親会
	今年度の総会予定	
	開催日時	未定
	場所	未定
	責任者	会長 伊貝 武臣(S43卒) 副会長 入谷 善久(S43卒)
	問合せ先	事務局 竹村 聡 E-mail: take55@office-takemura.com TEL 06-6947-6011
	関西キタンゴルフ会の予定	
開催日時	平成25年11月19日(火) 8:00~	
場所	能勢カントリー倶楽部(兵庫県) TEL 072-794-1101	
連絡先	事務局 近藤 TEL 072-794-7017	
新年懇親会の予定(詳細は未定)		
開催日時	平成26年1月18日(土) 11:00~	
場所	中央電気倶楽部 会議室・食堂	
応化会 関西支部 (工学部 応用化学系)	恒例行事	隔年で総会・講演会・懇談会と工場見学会
	今年度の実施状況	平成25年6月6日(木) 近畿セキスイハイム(株)工場見学
	来年度の総会予定(応化会本部総会と関西支部総会を併催)	
	開催日時	平成26年6月14日(土) 15:00~18:30
場所	大阪弥生会館	
責任者/問合せ先	支部長 川嶋 右次(S39卒) E-mail: riverisland@zb.ztv.ne.jp TEL 077-545-4195	
二葉会 関西支部 (工学部 電気学系)	恒例行事	年1回の総会・講演会・懇談会
	今年度の総会予定	
	開催日時	平成25年11月23日(土) 17:00~20:00
	場所	大阪弥生会館
責任者	支部長 藤井 眞澄(S44卒) E-mail: fujii-m@kanden-plant.co.jp	
問合せ先	二葉会 HP 又は、幹事 伊藤 恵一(S62卒) E-mail: itoh.keiichi@nike.eonet.ne.jp	

東山会 関西支部 (工学部 機械工学系)	恒例行事	年1回の総会・講演会・懇談会
	今年度の総会予定	
	開催日時	平成25年11月2日(土) 15:00~19:00
	場所	大阪弥生会館
	講演	未定
責任者	支部長) 安田 幸伸 (S39卒)	
問合せ先	事務局) 深谷 修 (S34卒) E-mail: o-fukaya@hcn.zaq.ne.jp TEL/FAX 072-643-6909	
鏡ヶ池会 関西支部 (工学部 土木工学系)	恒例行事	・支部大会(総会) ・関西銀シャチ会(60才以上の集い) ・関西バリバリ会(卒20年までの若手の集まり)
	今年度の支部大会実施状況	
	開催日時	平成25年9月13日(金) 18:30~21:30
	関西銀シャチ会予定	
	開催日時	平成25年11月15日(金) 18:30~21:30
	場所	がんこ阪急東通店
	責任者	支部会長) 浜嶋 敏一郎 (S47卒) E-mail: hamajima.koichiro@oakis.co.jp
問合せ先	支部幹事) 鳥居 剛 (S54卒) E-mail: torii@cpcinc.co.jp TEL 06-4300-3202	
セコイア会 関西支部 (農学部)	恒例行事	年1回の総会・講演会・懇談会
	今年度の総会予定	
	開催日時	平成25年11月9日(土) 10:00~15:00
	場所	大阪弥生会館
	講演	未定
	責任者	支部長) 加藤 壽郎 (S45卒)
問合せ先	幹 事) 寺前 朋浩 (S61M卒) E-mail: teramae@sc.sumitomo-chem.co.jp	

■連絡先 関西支部長 寛 哲男

E-mail fwpg2746@mb.infoweb.ne.jp

名古屋大学遠州会 NUAL Ensyu Branch

名大遠州会の第18回同窓会が平成25年6月15日(土)夕刻よりオークラアクティビティホテル浜松にて、来賓として濱口名大総長と伊藤全学同窓会代表幹事、総務課廣川主幹をお迎えし、70余名が出席して盛大に開催されました。会は物故会員への黙祷で始まり、庄田武遠州会会長の挨拶の後、濱口総長からはまず地元ピアノ製造会社に在籍する遠州会会員伊藤公保さんの尽力で購入出来た豊田講堂用ピアノの關鍵式での様子とピアノ製作工程見学時の驚きについてお話があり、その後大学の国際化の近況に関して、G30プログラムの進行状況、海外大学への日本法研究教育支援、ミャンマー大統領との会談、リーディング大学院プログラム、名大生の海外フィールドリサーチなどの様子を、最後に「NAGOYA UNIVERSITY」の実現に向けて更なる課題に取り組む決意を力強くお話されました。伊藤代表幹事からは今年中に海外支部が13になること、名大カードへの加入要請、ホームカミング日の予定などについてお話があり、廣川主幹からは名大基金への理解と協力要請がありました。

この後91歳の久保忠訓遠州会名誉会長の乾杯挨拶で懇親会がスタートし、軽やかなエレクトーンの演奏をバック



出席者集合写真

に、世代を越えて歓談したり、総長を囲んだ記念撮影を行うなど楽しいひと時を過ごし、来年も参加することを誓って9時前に終了しました。この同窓会の様子は地元静岡新聞、中日新聞に写真入りで掲載されました。

■連絡先 名大遠州会事務局長 原田憲道

E-mail enshuhrd@yahoo.co.jp

国際言語文化研究科同窓会

国際言語文化研究科の日本語文化専攻は、国内外に多数の日本語・日本語教育・日本文化の研究者を輩出し、日本語教育研究の国際的な研究拠点となっています。その修生が集まって、2013年8月5日(月)に「日本語教育研究集会」を開催しました。会議には杉村泰(名古屋大学)、許夏玲(東京学芸大学)、木下りか(武庫川女子大学)、鈴木智美(東京外国語大学)、山本裕子(中部大学)、名嶋義直(東北大学)などの修生や在学生のほか、朱芬(華東政法大学)、ジュマエフ・ラヒモナリ(タシケント国立立法科大学)といった海外の大学の日本語教員も参加して、日本語教育に関する研究発表と意見交換を行いました。会議の後には懇親会を行い、同窓生と在学生および学外研究者の交流を図るとともに、教育・研究のネットワークの構築を進めました。来年度も8月上旬に本会議を行う予定です。

■連絡先 杉村 泰

E-mail sugimura@lang.nagoya-u.ac.jp

http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/



日本語教育研究集会の懇親会

同窓会行事カレンダー

全学及び部局同窓会行事が下記のとおり開催されます。

詳細は、全学同窓会ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/> をご覧下さい。

○名古屋大学文学部・文学研究科同窓会

会 合 名：秋季サロン

「名大、南大、名古屋の誇り、名古屋の華」

伝統文化に造詣の深い南山大学人文学部教授安田文吉先生(1969年卒業 国文学専攻)が、名古屋を熱く語ります。一般の方々も大歓迎。

日 時：2013年10月19日(土) 14:00~15:30

場 所：名古屋大学文学部・文学研究科237講義室

入場無料

連 絡 先：FAX：052-789-2666

E-mail：bun-doso@lit.nagoya-u.ac.jp

○関東支部 二葉会東京支部総会

日 時：2014年2月7日(金)

場 所：「ゆうぼうと(五反田)」(予定)

連 絡 先：高木茂行(25年度支部長)

E-mail：shigeyuki.takagi@toshiba.co.jp

スウェーデン王立科学アカデミー(IVA)年次総会

2013年10月22-30日

ストックホルム国際会議に関東支部の依田幹事が国王による招待講演をされます。

東山会関東支部13年度秋季ゴルフコンペ

2013年10月20日(日)

マグレガーカントリークラブ(千葉県夷隅郡)

連絡先：林 英伸 Tel：090-5121-8038

Hayashi.Hidenobu@ce.MitsubishiElectric.co.jp

○東京キタン会 新年会

日 時：2014年1月18日(土)

9時20分~16時(9時受付開始)

集合場所：東京駅鍛冶橋駐車場

見学場所：東京スカイツリー

連 絡 先：東京キタン会事務局 森本重彦

Tel：050-5803-8703

E-mail：sm407186@gmail.com

○名大遠州会第10回総会・第19回同窓会

日 時：2014年6月14日(土)

場 所：オークラアクトシティーホテル浜松

連 絡 先：名大遠州会事務局長 原田憲道

E-mail：ensuhurd@yahoo.co.jp

事務局からのお知らせ From the NUAL Office

●支援会費のお願い Call for contributions

名古屋大学全学同窓会の活動は、皆様からの支援会費、寄附金に支えられています。支援会費は年度ごとのお支払いとなります。皆様のご協力をお願いします。

○支援会費 Supporting Fee 支援会員 Supporting member：一口 5,000円

支援法人会員 Supporting institution：一口 50,000円

○支払い方法 郵便振替 Post Office Account 口座番号：00860-8-113043

自動引落 利用ご希望の方は、預金口座振替依頼書をお送りしますので、同窓会事務局にご連絡ください。

「名古屋大学カード」でつながる大学支援 年会費永年無料!

家族会員(1名)も無料です。

加入者は、9,800名を超えています!!



OB 企業等による優待サービス

木工家具、宝石、ビジネス週刊誌、旅行などを優待価格でご利用いただけます。

詳しくは、下記 Web ページをご覧ください。

<http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

編集後記

本誌は今号で20号を迎えました。今後も卒業生のご活躍の様子や名古屋大学、各支部・部局同窓会のイベント等、わかりやすくお届けしたいと思っております。変わらぬご支援をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

(全学同窓会広報委員会)

NUAL Newsletter No.20 平成 25 (2013) 年 10 月発行

Nagoya University Alumni Association

NUAL 名古屋大学全学同窓会

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 TEL/FAX 052-783-1920

E-mail nual-jimu@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

編集：名古屋大学全学同窓会広報委員会